

情報・システム研究機構教育研究評議会（令和元年度第6回）議事要旨

日 時：令和2年1月24日（金）10：00～12：00

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：栗原孝次評議員、徳田英幸評議員、鳥海光弘評議員、ベントン・キャロライン評議員、安成哲三評議員、藤井良一評議員（議長）、津田敏隆評議員、喜連川優評議員、椿広計評議員、坂口広志評議員、中村卓司評議員、花岡文雄評議員、藤山秋佐夫評議員、野木義史評議員（極地研）、越前功評議員（情報研）、伊藤聡評議員（統数研）、仁木宏典評議員（遺伝研）

オブザーバー：鈴木久敏監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【報告事項】

（1）研究費不正の再発防止について

藤井議長より、机上配付資料に基づき、研究費不正の再発防止に向けた機構内での検討状況について報告があった。

【審議事項】

（1）共同研究規則の改定について

坂口評議員より、資料1-1、1-2に基づき説明があり、審議の結果、経営協議会及び役員会にて審議することが了承された。

（2）中期目標・中期計画の変更について

津田評議員より、資料2-1～2-4に基づき説明があり、審議の結果、経営協議会及び役員会にて審議することが了承された。

また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

【報告事項】

（2）研究教育職員に係る人事異動について

藤井議長より、資料3に基づき報告があった。

(3) 2020年度(令和2年度)国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について

坂口評議員より、資料4-1~4-4に基づき報告があった。また、椿評議員より、追加配付資料に基づき大学におけるデータ駆動型学術研究力強化のための大学共同利用システム改革について補足説明があった。

<意見概要>

- 育成する側について、既にポストを有している人が何か月か来るのか、あるいはポストクといった人まで想定しているのか。

→ 現時点では大学等にポストがある人を想定している。

- 育成の期間はどのくらいか。

→ 現在調整している例は特殊で5年間だが、既存の研究者交流プログラムを活用する場合には、3か月程度の短期を想定しており、6か月程度にすることも検討している。

- サンプルとなるデータセットや何かはプラットフォーム的に集めていくのか。

→ 教育用の標準データセットは重要な問題だと考えており、収集もやらなければならないと考えている。なお、現在持っているデータの規模は大きくないため、定型的なデータが第一歩であるが、DS施設に入っているデータの活用も考えている。

- シニア教員のポストは承継教員か。

→ 当面は有期となるが、実績が出てくれば基幹経費化されて任期なしとなることを想定している。

- 6大学拠点・20協力大学とは何か。

→ 文部科学省に「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点校として選定されている北海道大学、東京大学、滋賀大学、京都大学、大阪大学、九州大学と、それらの拠点に協力校として選定されている20大学のことである。

(4) 2019年度補正予算(一般経費)の変更案について

坂口評議員より、資料5-1、5-2に基づき報告があった。

(5) 平成30事業年度における剰余金の使途の承認について

坂口評議員より、資料6に基づき報告があった。

(6) 外部評価委員会の進捗について

津田評議員より、資料7-1~7-3に基づき報告があった。

(7) 平成 30 事業年度の業務実績に係る評価結果について

津田評議員より、資料 8-1～8-5 に基づき報告があった。

【その他】

(1) 連合体の検討状況について

藤井議長より、組織、研究力強化、大学院教育、業務運営の 4 つのワーキンググループで検討していること及び大学共同利用機関の検証が検討されていることについて報告があった。

<フリーディスカッション>

●データサイエンティスト育成の中心となり、データサイエンス人材のピラミッドについて責任を持つような役割を果たすことを期待している。

→コミュニティ全体のネットワーク形成については、責任は果たせるのではないかと思う。大学や他の機関との信頼関係構築のために努力していく。

●医療ビッグデータ研究センターを中核とした AI・ICT による新しい医療支援体制の構築（情報研）に関連して、これだけのデータが集まったというのは、信頼度が出てきたということだと思う。今後、そのデータを囲い込まずにオープンにして研究を進めないとアジアから遅れてしまうだろう。

→人文系はなかなかデータを出さない傾向があるが、データを公開することのメリットを示さないとデータ取得が進まないと考えている。

●連合体について、組織を変えるのは大変だが、ポジティブに捉えて、機構にとって有利に働くようなものを作れたら良い。

→有効なものだけを取り入れて機構が良くなるような方向に進めたい。

●今後の重要な課題として文理融合・文理連携が挙げられるが、そのハードルが高い。それを推進できる場として大学共同利用機関は非常に重要である。海外でも難しいが、日本は可能性があるため、評価が問題とはなるが、上手く進めてほしい。

→第 6 期科学技術基本計画に入る予定であるので、今が自分たちで評価軸を作れる最後のチャンスである。

●社会科学も重要で有り、それをカバーする大学共同利用機関がないことも問題ではないか。実験経済学においては、日本にデータがないため、アメリカに行っているのが現状という話もある。

→コミュニティのニーズが顕在化していないということかと思われる。他方、経済学や社会学の公的統計データがオープンにされているが、使っているのは日本の研究者ではない。日本の研究者がもっとチャレンジングになってくれればよいが、そういったロビイングを任されるようになりたいと思う。

(次回の教育研究評議会の日程について)

- ・ 次回の教育研究評議会は、2021年3月17日(火)13:30から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 第2回～第5回議事要旨
- ・ 共同研究規則の改定について・・・【資料1-1】
- ・ 共同研究規則(新旧対照表)(案)・・・【資料1-2】
- ・ 中期計画新旧対照表・・・【資料2-1】
- ・ 中期目標・中期計画一覧表・・・【資料2-2】
- ・ 関係資料・・・【資料2-3】
- ・ 中期目標・中期計画の変更手続き等について・・・【資料2-4】
- ・ 研究教育職員の人事異動・・・【資料3】
- ・ 令和元年度補正予算案及び令和2年度予算の伝達について・・・【資料4-1】
- ・ 先端研究設備整備補助事業(情報科学分野)の公募について・・・【資料4-2】
- ・ 先端研究設備整備補助事業(生命科学分野)の公募について・・・【資料4-3】
- ・ 教育研究組織整備概要(継続拡充)・・・【資料4-4】
- ・ 2019年度補正予算編成方針(一般経費)・・・【資料5-1】
- ・ 2019年度補正予算(一般経費)・・・【資料5-2】
- ・ 平成30事業年度における剰余金の使途の承認・・・【資料6】
- ・ 外部評価委員会(第1回)議事次第・・・【資料7-1】
- ・ 令和元年度外部評価委員会出席者名簿・・・【資料7-2】
- ・ 外部評価委員会(第2回)議事次第(案)・・・【資料7-3】
- ・ 平成30年度に係る業務の実績に関する評価の結果について(通知)・・・【資料8-1】
- ・ 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果・・・【資料8-2】
- ・ 国立大学法人及び大学共同利用機関法人の平成30年度に係る業務の実績に関する評価について(所見)・・・【資料8-3】
- ・ 平成30年度評価結果について・・・【資料8-4】
- ・ 平成30年度評価に係る審議経過について・・・【資料8-5】